

国語 第1学年 かずと かんじ

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、数を表す漢字の読みと数量を対応させ、生活の中で数を知らせる文に使う。文字を書くことと数える対象を結び付ける。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「かずと かんじ」 教材名「かずと かんじ」

2 単元の目標

数を表す既習の漢字を読み、文の中で使える。書いた文を読み返し、数と対象が相手に伝わるかを確かめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①数を表す既習の漢字を読み、文の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)エ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、書いた文を読み返し、数と対象が相手に伝わるかを確かめている。(B(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

数を表す漢字の読みと数量を対応させ、生活の中で数を知らせる文に使う。文字を書くことと数える対象を結び付ける。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)エを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点は知識・技能であり、本案ではそれを使う言語活動の関連項目としてB(1)エを加えている。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師が用意した実物を数え、数字と漢字のカードを対応させる。独自の学校生活の文で数を知らせ、読み手も実物や絵で確かめられるようにする。おおむね満足できる状況は、書いた文を読み返し、数と対象が相手に伝わるかを確かめているという姿で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

第1次 第1時：○実物を数え数字と漢字を対応させる。 評価：学習状況を見て支援する。

第1次 第2時：○数を表す漢字を読んで書く。 評価：学習状況を見て支援する。

第1次 第3時：○数を知らせる短い文を作る。 評価：学習状況を見て支援する。

第1次 第4時（本時）：○対象と表記が合うか確かめる。 評価：知①・思①（発言・学習記録）

6 本時の指導（4／4）

(1) 本時の目標

書いた文を読み返し、数と対象が相手に伝わるかを確かめられる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「この数を知らせるには、どの漢字をどの順に書きますか」

【めあて】数を表す漢字の読みと数量を対応させ、生活の中で数を知らせる文に使う。

予想される児童の反応：・数えた物の数と書いた数が同じか確かめたい。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「この数を知らせるには、どの漢字をどの順に書きますか」

教師が用意した実物を数え、数字と漢字のカードを対応させる。独自の学校生活の文で数を知らせ、読み手も実物や絵で確かめられるようにする。

自分の語や文、話し方を試し、相手が受け取った内容と比べる。直す箇所を自分で選び、理由とともに記録する。

予想される児童の反応：・数えた物の数と書いた数が同じか確かめたい。

・数字と漢字で表している数は同じ。

・数える物の名前も必要。

指導上の留意点：教師が用意した実物を数え、数字と漢字のカードを対応させる。独自の学校生活の文で数を知らせ、読み手も実物や絵で確かめられるようにする。

想定するつまづき：読み上げた順に漢字を並べるだけで数量を確認しない、物の名を省いて数だけ書く。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 書いた文を読み返し、数と対象が相手に伝わるかを確認している。(発言と学習記録)

知① 数を表す既習の漢字を読み、文の中で使っている。([知識及び技能] (1)エ) (使った言葉・音読や表記の確認)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・数える物の名前も必要。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に教材名とめあて、その左に問い「この数を知らせるには、どの漢字をどの順に書きますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

